シンポジウム

1 2 3

循環器領域におけるCatheter based therapyの現状 司会者のことば

司会

宮崎 俊一¹⁾ 住吉 徹哉²⁾

我が国の超高齢社会においては、外科的手術に比べ侵襲度の低いカテーテルを用いた治療が実施されてきた。1970年代に登場した冠動脈疾患に対するカテーテル治療は先駆的であり、現代では、医療器具・医療技術の著しい進歩により、治療成績は飛躍的に向上し、適応も大幅に拡大され、確立した分野となっている。近年では、循環器領域におけるカテーテル治療の対象は冠動脈にとどまらず、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植込術（transcatheter aortic valve implantation：TAVI）や、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁形成術等、弁膜症を対象としたカテーテル治療が台頭してきた。また、心房細動に対するカテーテルアブレーションについても、手技やデバイスの改良により、治療成績は改善されつつある。そこで、本シンポジウムでは、前述のように、著しい進歩・改善を遂げてきたカテーテル治療について、実際の臨床現場で実施されている先生方からその

現状を説明していただき、それぞれの治療法が抱える課題も示していただいた。特に「低侵襲であれば、その対象はどこまでも拡大し得るのか？」「高額な医療機器や設備、多職種からなる専門の医療スタッフを必要とする治療を実施するための施設認定は？」「受療者自身が真に納得して治療を選択できるための『説明と同意取得』の工夫は？」「治療成績を真に評価するための集計やその開示は？」と言った問題は、医療コストも含めて議論されるべきであるが、倫理面での整備が遅れており、現時点では結論を得ることは難しいことが浮き彫りとなった。実際、TAVIに必要な医療費は諸条件にもよるが、500～700万円程度であり、この治療を100歳の高齢者に適用するか否か等、臨床現場で抱く疑問は少なくない。今後、これらの先進的治療が正しく普及していくためには、社会的にも幅広い見識を持ったリーダーらによる「良識」ある対象例の選択が不可欠である。

¹⁾大阪府済生会富田林病院/近畿大学循環器内科学, ²⁾日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院循環器内科

115th Scientific Meeting of the Japanese Society of Internal Medicine : Symposium : 2. Current status of catheter based therapy in cardiology ; Introduction.

Shunichi Miyazaki¹⁾ and Tetsuya Sumiyoshi²⁾ ; ¹⁾Saiseikai Tondabayashi Hospital, Japan/Division of Cardiology, Kindai University, Japan and ²⁾Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Japan.

本講演は、平成30年4月14日（土）京都市・京都市勤業館（みやこめっせ）/ロームシアター京都にて行われた。